

花巻市まちづくり総合計画(素案)パブリックコメント実施結果

- 1 意見募集期間 平成25年6月7日～7月8日
 2 意見提出者数及び件数 5名 52件

3 提出された意見と市の考え方

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
1	計画全般	<p>全体の構成を再検討されたい。 問題の解決方法には2種類あると言われています。 一つは「原因追求型」。問題点を掘り起こし、その原因を見つけて対策を講ずることにより改善しようとする、従来からの方法です。 二つ目は、「解決志向型」。テーマについて「望ましい将来像」を持ち、現実と将来像との違いを埋める対策を講ずることにより解決に近づこうとする、新しい方法です。 市は、今回の策定作業に、まさに新しい方法で「解決志向型」の「望ましい将来像」を「目指す姿」として提案することを英断をもって採用し、「中期プラン」によって「その時々々の社会情勢に対応し、施策を展開していく」こととしたと思われます。 ところが、今回提示された素案では、従来の形式を引きずった「原因追求型」(第2章)と「解決志向型」(第3章)が、何の脈絡もなく形式的に併用されています。 しかも、第2章の「原因追求」部分の分析は、吟味が不十分な推計値と期待値と目標値が混在し、熟度の低い内容となっています。 その結果、第2章と第3章以降との間に論理的な脈絡がなく、全体の説得力を弱めてしまっています。 せっかくの「長期ビジョン」の説得力をより高めるため、思い切って第2章を削除して「解決志向型」に徹底するなど、全体の構成を再検討願います。 なお、「目指す姿」との違いを示すための「現実」のデータについては、資料編に記載することで十分と思われます。 また、従来の「基本計画」等は、最初に課題とそのバックデータを記載し、続いて計画を記載するという「論文」的な書式が一般的でしたが、近年は、これを読んでいただく市民に伝えたいこと、アピールしたいことだけをストレートに記載し、その背景等は付属資料で示す方法が多く採用されています。編集方法を市民の目線から検討願います。</p>	<p>計画書の流れをわかりやすくするため、章の冒頭に説明文を加えるなど、素案の構成を変更しました。</p> <p>【修正後】 章の冒頭に説明文を追加 第2章、第3章の構成を変更</p>
2	計画全般	<p>学識経験者と市民による「策定委員会」等の設置を検討されたい。 「まちづくり基本条例」の制定にあたっては、市民会議に続いて、学識経験者と市民(市民会議からも選出)による「まちづくり基本条例策定委員会」が設置され、市内部の検討とパブリックコメントを挟んで計7回の検討が行われました。(熱心な意見交換の内容はインターネットの委員会議事録に詳しく記載されています。) 今回は、このような検討が不足していると思われます。 今後、パブリックコメントの意見も踏まえ、市民参画による策定委員会等の場で、十分な検討が行われることを望みます。</p>	<p>パブリックコメント等からの意見を調整後、3地域の地域協議会、花巻市地域自治推進委員会での審議を経て、最終的に総合計画審議会に諮問し、審議いただいております。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
3	計画全般	<p>総合計画・長期ビジョン作成への市民参画について 花巻市民の今後10年にわたる「くらし・地域・コミュニティー・事業・経営・行政のあり方など」にかかわる計画の作成に、10万人市民の何%の参画(目標)を考えているのでしょうか？</p> <p>なぜなら、誰か(上の人・一部の人)が作った計画ではなく、より多くの市民が気軽に参画し、声を反映した計画にすることが、市民自身の計画になると考えるからです。</p> <p>しかし、それは、行政施策の中で、きちんと公開され、参画しやすい様々な場を作らなければ参画できません。そのためには、例えば、20%であれば20,000人、10%であれば10,000人、5%であれば5,000人などの目標をもち、具体的な対応をすることが、市民参画による長期計画と言えらるからです。</p> <p>そうした点では、あまり前向きでないと感じました。誰のため・何のために10カ年計画を作るのでしょうか？！仕事をするのでしょうか？！マネジメントが課題なのでしょうか。</p>	<p>今回の計画策定では、市民参画・協働による策定を基本方針に、市民会議を設置し、委員50人を公募(委員＝公募44人＋富士大生7人)し、市の目指す姿等について提言をいただいたほか、パブリックコメントを実施し、広く市民に意見を募集したところです。また、市民2,175人にアンケートを送付(回答は1,017人)し、市の課題や将来像についてお聞きしております。</p> <p>市民参画につきましては、市民の主体的な参画に期待するもので、具体的な目標を設定するのは難しいものと考えますが、今回の計画策定に限らず、市民参画の機会が、より多くの市民に浸透できますよう、周知方法を工夫してまいります。</p>
4	計画全般	<p>全て現状肯定から案が作成されています。提起されている花巻市の現状がなぜそうなったのかという検証がありません。原因を追究すること無しに新しい計画は砂上の楼閣に等しいのではないのでしょうか。</p> <p>なぜ、衰退してきたのかとの検証が行われた(調整ずみとありますので)のであれば、それを詳細に渡って明示すべきだと思います。</p>	<p>長期ビジョンは、市の持つ強みやまちづくりにあたっての重要な視点等を踏まえ、10年後の目指す姿を掲げ、その実現に向けた基本的な方向を示すこととしています。各政策ごとの現状と課題については、中期プランに掲載することとしております。</p>
5	計画全般	<p>職員1,000人、加えて老練副市長2人も補佐したとは思えない素案 市長以下職員1,000人の人件費80億円が策定費用。対効果たる素案は役に立たない。策定提起から4年も掛ける内容では無い。何が市政目的か読取れず、市統治への意欲が全く感じない情けないもの。人口10万人も生命線たり得ない飾り物に終わるのも衰退土地同士の寄せ集め合併の限界か。先人為政者が挑んだ開拓は放棄し市長職はボランティアで可と連想。市は国の制度と事業のみ行う下請機関に徹す宣言と理解すれば概ね納得。</p>	<p>本計画は、まちづくりの総合的な計画として、各分野を網羅して策定しており、市の持つ強みや本市を取り巻く社会情勢などまちづくりにあたっての重要な視点を踏まえ、10年後の目指す姿を掲げ、その実現に向け、総合的にまちづくりを展開していくための基本的な方向を示すものです。</p>
6	計画全般	<p>市民の生活者像を加える 将来ともに定住してもらいたい市民の生活者像を提示。花巻で生活することのメリットを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代世帯モデル: 家族構成、従事業種、子育て上のメリット、年間労働日数、年間所得等 ・中山間地域の農林業世帯モデル: 家族構成、経営作目と規模、年間労働時間、年間所得等 	<p>市内の各地域で、様々な形態で市民が生活しており、市として、定住してもらいたい生活者像を特定するものではないと考えますが、今後のまちづくりを進めるにあたって、常に考慮しなければならない重要な視点の一つとして、人口減少と少子高齢化を掲げており、それを踏まえたまちづくりを総合的に展開してまいります。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
7	計画全般	<p>少子化の原因と市勢への影響、対策を特集編で加える 出生数や学卒者の動向を始めとし計数で今後の少子化を見通した上で、市勢に及ぼす影響と対策を示す。</p>	<p>少子化の原因については、個人の価値観の変化や経済的問題等様々であり、人口減少の大きな原因として全国的な課題と認識しております。本市としても、今後のまちづくりを進めるにあたって、常に考慮しなければならない重要な視点の一つとして、人口減少と少子高齢化を掲げており、安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、雇用環境の充実や生活基盤の充実、子育て支援など「しごと」、「くらし」、「人づくり」の各分野から総合的に施策を展開してまいります。</p>
8	計画全般	<p>楽な時代を生きた先人があったらどうか。百年後に美田を残す為に市独自策を打ち出すこと 「花巻の社会経済の老化衰退は抗いようが無い」「凋落する花巻に打つ策は無い、今更」「投資は不良債権と化す。何もせずが一番」、しかしこれで納得が許されないのが行政。納得は給与・退職金返上、ボランティアでと。 今やらずしては百年後に残るもの無しと、思い切った対策を打つ前提として次の認識を！</p> <p>10万市民に素案が諭す ・素案には直接書いてないが深読み 市民関心事の企業誘致、企業に花巻選択の利が無い。普通のことでは転入ゼロ、と。 ・深読みへの処方箋 交通の便良く、安価な工業団地を誘致向けに工夫。固定資産税の減免以上の大胆な優遇策も。</p> <p>市職員1,000人にも諭す ・素案には直接書いてないが深読み 今後10年で1万人弱減。20、30年後も同じ傾向。市収入(地方交付税、市税)が減る中で、行政サービスより人件費を優先させては市民は怒る。市職員給与は行政サービス経費を差引いた残滓でしか払えない、と。 ・深読みへの処方箋 衰退地方小都市にあつて、市民の困窮を余所にラスパイレズや人勸を振り翳しても無い袖は振れぬ。 また、収支均衡の為に市税値上げは不可。 自己犠牲の賢治精神、「ジブンヲカンジョウニ入レズ」として給与減を市職員が受け入れる。</p>	<p>本計画は、まちづくりの総合的な計画として、各分野を網羅して策定しており、市の持つ強みや本市を取り巻く社会情勢などまちづくりにあつての重要な視点を踏まえ、10年後の目指す姿を掲げ、その実現に向け、総合的にまちづくりを展開していくための基本的な方向を示すものです。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
9	計画全般	<p>定住人口増加対策について項を起こして追加 この4月土沢地区会場の懇談会で話題になった定住人口増加策について項を起こして加える。</p>	<p>今後のまちづくりを進めるにあたって、常に考慮しなければならない重要な視点の一つとして、人口減少と少子高齢化を掲げており、それを踏まえたまちづくりを総合的に展開するものです。そのことをわかりやすくするため、章のタイトルを修正しました。 また、人口等の主要指標については、計画推進により推計値より良好な状態になることを期待するものであり、その考え方について追加しました。</p> <p>【修正前】 第2章 本市の現状と見通し</p> <p>【修正後】 第2章 まちづくりの視点</p> <p>第3節に主要指標の考え方を追加 「ここで示す指標は、今日までの推移や現状の社会情勢を考慮し、将来を推計したものであり、あくまでまちづくりを進めるにあたって基本となる数値として押さえておくもので、本計画を推進することによって、より良い数値になっていくことを期待するものです。」</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
10	計画全般	<p>①少子化に歯止めをかける、のであれば(案)に示されている分野に、若者を呼び込むことです。若者達は、それぞれ夢と希望に満ち溢れています。けれども、そうしたことに人生をかけてはもらえないのが、日本の現状です。とすれば、郷土を愛し、定住できるだけの環境を十年かけて充実することが必要になります。人は誰でも、森や山、川、自然が好きなのです。街に住み、充分な所得保障をしさえすれば、若者は必ず育つ筈です。</p> <p>②しかし、そのためには、とんでもない予算が必要となります。福祉事業、医療介護などに従事する現場の職員の報酬は低すぎます。だから花巻市として、どこまでその人たちの生活、人生を経済的に保障できるかがかかっているのです。その方針を、この計画案において明らかにすれば、Uターン、Iターン、そして若者の定住条件がそろうはずです。国の支援では、どれも先細りの職業です。市が十年がかりで、その補強を示し、全国に発信することが大切だと思います。</p> <p>③同様に、コミュニティで区割りをするのではなく、それぞれの部落や地域の特徴で、意欲のある人たちを迎えて、空き地や田畑、森林などをしっかり支えていく、そのためにこそ充分な予算を計画的に立てることが十年かけてやる市の街づくりの意義ではないかと思えます。要するに、地産地消ができる市を目指すことが必要十分条件だと思います。観光、スポーツ競技などの誘致にうつつをぬかす暇とお金があったら、まずは10年計画で地球の一部の恵みである土地、水、樹木、などの破壊をやめて修復しながらの十年にすべきではないかと思うのです。この発想は「宮沢賢治」の願望にかなう筈です。</p> <p>④現在存在している個々の産業を中心に市として経済的に支援し、技能を深め、高めて、各地の街を、その関連で街の部分構成していけば、その街は充実していくはずですが、ところが、高速道路ができて商店街が潤わない、工場は儲からないと引き上げる、大型店舗もはやらないと引き上げる、おそらく、会社化した農業も、伝統の継承どころか、土壌を荒らして、競争にまければ撤退することでしょう。</p>	<p>①森や山、川など花巻の豊かな自然を大切に、次世代へ引き継いでいくこと、企業誘致を推進するなど、雇用の創出を図ることについて、計画の中に施策として位置づけているところです。</p> <p>②高齢化社会の進行により、介護、福祉サービスの需要が高まっており、従事する職員の確保が必要であると認識しておりますが、市として特定の人や職種に対して経済的保障を行うことは難しいと考えます。</p> <p>③農林業が持続していくためには、担い手となる後継者の育成と担い手への農地集積が急務であると認識しており、計画の中に施策として位置づけているところです。</p> <p>④工業振興の施策として地元企業の技術力、経営力の向上を図ることとしているほか、起業に対する支援や産業間の連携を推進するなど、各産業の育成、支援に努めることとしております。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
11	計画全般	<p>これからの花巻に必要なのは行政施策の提案 北上との合併待ちかと云いたくなる程、市独自プランの無い市政。地域課題対処への思い切った施策が必要。 なお、花巻には、閉まっている商店、空き家空きアパート、高齢化一途の集落、国保7億・固定資産税5億など15億円の延滞と底落ち有り。市はこれらを自然現象と拱手傍観し兼ねないので、打破する施策を提案。</p> <p>①毎年10億円積む企業誘致用の基金創設 企業誘致の団地整備や優遇措置の財源として基金を設置。原資は市税10%分を充て毎年10億円積む。 程度の知れた素案(知恵とも)しか無い市役所から、人件費優先に使われ兼ねない市税を強権的に取られるのは無駄。また素案からは副市長以下誰一人として市長に進言や反論しない事勿れ風土が伺い知れる。 唯々諾々の蔓延る市には楽観は出来ない。企業誘致限定の積立て優先ルールで、無借金で誘致を進める。</p> <p>②人口増時のみに支給する13億円の市職員期末・勤勉手当 特別職:市長、副市長の期末手当年間額800万円余りは、人口増に転じた時(つまりその年度)に支給。議員一人当たり116万円の期末手当も同様に。但し支給にあっても15%加算は廃止する。 一般職:1人570万円余りの給与のうち2割強を占める期末勤勉手当129万円を特別職同様の支給方法に。</p>	<p>①企業誘致に係る優遇措置や受入環境の整備等につきましては、本市の雇用や経済活力を高めるための「投資」と考えておりますので、基金による財源等の如何に関わらず、今後に対応して参ります。</p> <p>②本市では、人事院勧告に準拠することを基本としながら、岩手県人事委員会勧告及び他自治体の状況を総合的に勘案し、本市一般職職員の給与等について定めることとしています。また、特別職の給料等については、花巻市特別職報酬等審議会条例に基づく特別職報酬等審議会を毎年開催して審議いただいていることから、ご提案の件について対応する考えはございません。</p>
12	計画全般	<p>長期ビジョンを實踐する「第1期プラン」を、同時に明示することが必要と考えます。 長期ビジョンを何度も読みましたが、ビジョンを實現する裏づけがなく、立案セクションには失礼ですが、単なる美辞麗句・文章かなと感じました。 2014年 つまり来年がスタート年度になりますので、第1期プランを同時に明示すべきです。</p>	<p>長期ビジョンは、市民と市が10年後の目指す姿を掲げ、その實現に向けた基本的な方向を示すもので、その目指す姿や方向性についてご意見を伺うものです。</p>
13	第1章 第1節 計画策定の趣旨	<p>「政策、施策の階層ごとに「目指す姿」を掲げ」とする。 「目指す姿」がより鮮明になると思われま。</p>	<p>「目指す姿」をわかりやすく表示するため、ご提言のとおり素案を修正しました。</p> <p>【修正前】 政策、施策の階層ごとに目指す姿を掲げ・・・</p> <p>【修正後】 政策、施策の階層ごとに「目指す姿」を掲げ・・・</p> <p>その他各章においても同様に修正</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
14	第1章 第1節 計画策定の趣旨	<p>「こうして策定した「花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」は、今後10年間のまちづくりの指針とするものです。今後、その実現に向けて、その時々の社会経済情勢に対応した最も有効な事業や施策を選択し、展開していきます。」とする。</p> <p>長文節のため、途中で「長期ビジョンは今後10年間の指針」と言い切り、余分な説明を省き、より簡明に趣旨を表現することが適切と思われる。</p> <p>なお、「今後10年間のまちづくりの指針となる」のではなく、「指針とする」とすることにより、長期ビジョンを市と市民の意思として定めることを強調したいと考えます。</p>	<p>長期ビジョンがまちづくりの指針であることをわかりやすく表現するため、素案を修正しました。</p> <p>【修正前】 「花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」は、道路や建物の建設など事業の実施について明示する計画ではなく、今後10年間のまちづくりの指針となるもので、本計画で示す目指す姿の実現に向けては、この指針に沿って、その時々の社会経済情勢に対応し、課題解決に最も有効な手段となる事業を選択し、施策を展開していくものです。</p> <p>【修正後】 「花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」は、道路や建物の建設など具体個別の事業を積み上げた計画ではなく、今後10年間のまちづくりの方向性を示すもので、本計画で掲げた「目指す姿」を実現するために、この方向性に沿って、その時々の社会経済情勢を踏まえ、最も有効な手段となる事業を構築し、施策を展開していくための指針とするものです。</p>
15	第2章 第1節 2 グローバル化の進行	<p>「2 グローバル化の進行」を「2 産業の停滞」とする。</p> <p>総論としてグローバル化が進行していることは理解できますが、そのことが後段の指標や長期ビジョンとどう関連しているか不明です。グローバル化が花巻の産業・経済の現状を代表するとは考えられません。ここで長期ビジョンの「しごと」分野の前提となる課題を挙げるのであれば、後段のデータから抽出した当市の産業・経済が抱える課題を代表するタイトルにするべきと思われる。</p>	<p>市を取り巻く社会情勢を項目化し、タイトルとしており、今後のまちづくりにあたって、常に考慮しなければならない重要な視点としています。グローバル化は、世界からの影響を直接受けることになるリスクとともに、世界と直接結びつき地域経済の活性化につながっていく可能性もあり、世界の中の花巻を意識していくことが必要であることから、まちづくりにあたって、踏まえておかなければならない視点と考えております。それをわかりやすくするため、章のタイトルを「まちづくりの視点」に修正しました。</p> <p>【修正前】 「第2章 市の現状と将来の見通し」</p> <p>【修正後】 「第2章 まちづくりの視点」</p>
16	第2章 市の現状と将来の見通し	<p>タイトル「市の現状と将来の見通し」を「本市の課題」とする。</p> <p>ここでは、長期ビジョンの前提となる、現状とこのまま進行した場合の10年後の推計値から考えられる「課題」を明確に示すことこそが重要と思われる。特に、単なる過去の数値からの推計にすぎない値をもって、あたかも「将来目標値」と解釈されかねない表現は避けるべきと思われる。</p>	<p>本章は、将来像を描く前提として、まちづくりの重要な視点となる、本市を取り巻く社会情勢や主要指標の見通し、財政運営の考え方等を掲げるもので、内容に沿ったタイトルとして、「まちづくりの視点」と修正しました。</p> <p>なお、各章ごとに章の内容をわかりやすく伝える説明文を章の先頭に挿入しました。</p> <p>【修正前】 「市の現状と将来の見通し」</p> <p>【修正後】 「まちづくりの視点」</p> <p>【修正後】 章の冒頭に説明文を追加</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
17	第2章 市の現状と将来の見通し	<p>①この間の「長期計画とその到達点」の記述が必要と考えます。 花巻市は2006年1月に1市3町が合併し誕生。総合計画を策定して市政を執行してきたと思います。(2011年 中期計画の見直しは中止) 1ページの計画策定の趣旨には、「これまでの形式にとらわれない独自の…」とありますが、しかしこの間、花巻市がめざしてきたこと・現状・課題・問題点(強み・弱み・今後の課題)を明らかにした上で、発展的な10ヵ年計画を、10万人市民(有権者8万4千人)の参画で策定することが大切と考えます。 上記「長期計画とその到達点」がコンパクトでも記述されることにより、第1節・第2節の整合性が図られ、情勢と見通しが明確になると考えます。表は資料編に。</p> <p>②第1節の「1 人口の減少と少子高齢化の進行」の中で、古いデータを活用していますが、長期ビジョンは2014年から10ヵ年であることから、最新のデータ(花巻市独自のデータもあると思います)が望ましいと考えます。</p> <p>③社会情勢の中に、将来の見通しとして、以下のことが考えられます。 (1) 「大増税(消費税増税)」「社会保障の後退」「国民年金など負担増」などによる暮らしへの影響。 (2) 「TPP参加」による農畜産物などへの影響。 (3) 収入の減少(大企業はアップなどあるかも。中小企業は厳しく。年金も減少) (4) 「高齢化」「過疎化」が進む中で、ショッピングセンターや商店の郊外化による買物不便への対応など。</p>	<p>①長期ビジョンは、市民と市が10年後の目指す姿を掲げ、その実現に向けた基本的な方向を示すもので、各分野の現状と課題については、中期プランに記載することとしております。なお、市の強みについては、今後のまちづくりに最大限に活用していくため、長期ビジョンに追加しました。 また、計画書の流れをわかりやすくするため、章の冒頭に説明文を加えるなど、素案の構成を変更しました。</p> <p>【修正後】 第2章に本市の強みを追加 章の冒頭に説明文を追加 第2章、第3章の構成を変更</p> <p>②人口については、国勢調査をベースにしており、最新の調査結果であります平成22年を基準に記載しているところです。</p> <p>③ご提言いただいた項目について、(1)、(4)については、「人口減少と少子高齢化」、(2)については、「グローバル化の進行」に包含されるもの、(3)については、個人差があるなど、不確定なものと考えます。ここでは、まちづくりへの影響という大きな視点で捉えることとしており、それをわかりやすくするため、この章の題名を「まちづくりの視点」と変更しました。</p> <p>【修正前】 第2章 本市の現状と見通し 【修正後】 第2章 まちづくりの視点</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
18	第2章 第2節 主要指標の見直し	<p>①本文やデータから「課題」を抽出して第1節に記載し、グラフは資料編に移して記載する。</p> <p>例えば「人口」では、総人口が90,000人を切り、年少人口と生産年齢人口が減少して老年人口が増加すると推計されていますが、それは「目標値」ではなく、「このまま推移していくとこのような状況になる」という予測値にすぎません。推計結果のグラフに示されている最も重要な「課題」は、「生産年齢人口を増やしていかなければ、花巻はますます衰退していく。どうにかして、その世代を増やしていかなければ！」ということと思われます。推計は重要ですが、そこから本当の「課題」を探り、第1節で明確に指摘することこそが重要であり、グラフは、そのバックデータに過ぎないのではないのでしょうか。</p> <p>また、市民会議では、ここに示されている推計値を前提とした検討は行っていません。まさに、後から取って付けられたデータです。したがって、これらのグラフは第3章の長期ビジョン、少なくとも市民会議提案とはまったく関連がありません。あたかもこれらのグラフを前提に市民会議が長期ビジョンを検討したような記述は、好ましくないと考えられます。市民会議は、10年後の総人口を89,500人にするために長期ビジョンを検討したのではないはずで、さらに、タイトルが「主要指標の見直し」では、その値が長期ビジョンの「評価指標」に当たるとの誤解を招くと思われる。</p> <p>②仮に、グラフを残す場合、P5～10「推測します」「見込みます」を「推計されています」に統一する。</p> <p>「見込む」では「目標値」となってしまいます。市として「見込む」ではなく、富士大学の推計値を転載したものであることを明確にすることが必要と思われる。</p> <p>③各グラフに課題を明示する。</p> <p>推計値を示しただけでは、その意味するところが市民には理解できません。単に推計結果を示すのではなく、そこから課題を抽出して市民の共通理解・共感を得ることが重要と思われる。</p> <p>例えば、人口推計では、平成22年～35年の総人口が約12%減少しているのに対して、生産年齢人口は約18%と急激に減少しています。この減少傾向がその後の10年間も続くとすれば、平成45年の生産年齢人口は4万人前後まで減少するおそれがあります。ここに歯止めをかけなければ、産業・経済の負のスパイラルを食い止めることはできないのではないのでしょうか。単に総人口を増やす政策をとっても、それが老年人口の増えはまったく少子化や産業・経済の悪循環の防止にはならないと思われる。</p> <p>このような課題を明確に指摘することにより、それを防止し、改善するための「長期ビジョン」について、市民の共通理解・共感が得られると思われる。</p> <p>なお、10年後の計画を策定する場合はそのバックデータとして20年後まで推計するのが一般的な方法です。20年後も減少傾向が続くのか続かないのか、続くとすれば緩くなるのか加速されるのかを把握しなければ、方向を見誤り、課題を見逃すことになってしまいます。</p> <p>また、グラフの種類は、折れ線、棒、円など、訴えたい内容を効果的に表現するものを用いると、よりわかりやすくなります。</p>	<p>①人口減少は全国的な課題であり、本市においても大きな課題であると認識しておりますが、現在の本市の人口構成からは10年間で人口を増加に転じさせるのは、難しいと考えております。人口減少という現実をしっかりと認識したうえで、それに対応した施策、また、人口減少を緩和させるための施策を総合的に展開していくものです。そのため、生産人口だけを問題ととらえるのではなく、少子化や高齢化社会への対応も課題と考えております。</p> <p>また、「主要指標の見直し」については、将来の見直しであって評価指標と解釈されないよう、節の冒頭に説明文を掲載しました。</p> <p>なお、グラフについては、これまでの人口の推移と見込みを視覚で認識することができ、有効だと考えております。</p> <p>【修正後】 節の冒頭に「ここで示す指標は、今日までの推移や現状の社会情勢を考慮し、将来を推計したものであり、あくまでまちづくりを進めるにあたって基本となる数値として押さえておくもので、本計画を推進することによって、より良い数値になっていくことを期待するものです。」を追加</p> <p>②指標の推計については、富士大学と協働したもので、市としても同様に推計するものです。</p> <p>なお、「交流人口」につきましては、ご提言のとおり目標値としての意味合いが大きいことから削除することとします。</p> <p>【修正後】 「2 交流人口」を削除</p> <p>③内容をわかりやすくするため、本章を今後のまちづくりを進めるにあたって、常に考慮しなければならない重要な視点を示す「まちづくりの視点」の一つとして、人口減少と少子高齢化を掲げるとともに、本節の冒頭に主要指標の考え方を記述し、計画推進により、良好な状態になることを期待する旨を明示しました。</p> <p>なお、生産人口だけを課題ととらえるのではなく、少子化や高齢化社会への対応も課題と考えており、総合的に対応するものです。</p> <p>【修正前】 第2章 本市の現状と見直し 【修正後】 第2章 まちづくりの視点</p> <p>第3節に「ここで示す指標は、まちづくりを進めるにあたって基本となる数値として、今日までの推移や現状の社会情勢を考慮し、将来を推計したもので、本計画を推進することによって、より良い数値になっていくことを期待するものです。」を追加</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
19	第2章 第2節 主要指標の見直し	20、30年後の人口(年齢階層も)と、27地域毎の10年後の人口(過疎対策も)加える。10年後9万人割れの予測。更に20、30年後は8万人か6、7万人まで減るか。どこで？減り、なんで？減る。27地域毎の予測人口を地域編に。今迄も減り今後もっと減る人口。減らしている当事者との責任無くしては為政者の数字遊び。古今東西、人口減で栄えた土地は？人口減・衰退の放置の罪は職員不祥事の比では無い。	20年後の人口については、減少傾向が予測される場所ですが、今後の社会経済情勢により左右される可能性も大きいことから、あくまで参考と考えており、10年間の計画である本計画書には掲載しないものです。 また、27地区ごとの人口推計につきましては、推計に必要な各地区のデータが乏しいことから、行っていないものです。
20	第2章 第2節 主要指標の見直し	非正規就業者の動向・見直しを加える。	市独自で非正規雇用者に関する動向や見直しの分析を行うことは難しいと考えますが、市民の安定した雇用の場の提供に向け、就労支援の施策を展開してまいります。
21	第2章 第2節 2 交流人口	交流人口で期待値が記載されているが、過去のデータからの推計値を示す。 長期ビジョンで示すべき「目指す姿」「目標値」を示すのではなく、現在の花巻市の状況から想定される推計値を示して、取り組むべき課題を抽出することが必要と思われる。	交流人口の数値は、観光客の入込数とスポーツ大会等の入込数を合わせて推計してありましたが、施策の目標値と重なることから、素案から削除します。 【修正後】 「2 交流人口」を削除
22	第2章 第2節 3 産業構造	①就業者数が、平成26年にはあまり減少せず、第3次産業では増加に転ずると推計されているなど、これまでの減少傾向が緩和される推計となっているが、この推計を精査する。 平成22年から26年の生産年齢人口は3,631人減少すると推計していますが、就業者はその25.2%、915人しか減少しないと推計されています。これは、17年から22年の生産年齢人口減少数4,171人中、就業者が3,857人と約93%を占めている状況と整合しません。また、平成17年の生産年齢人口に対する就業者割合が84.3%、平成22年は83.7%で減少傾向であるのに対し、平成35年には90%が就業することとなり、花巻の状況からかけ離れた推計値となっているのではないのでしょうか。 人口推計で示されているとおり、生産年齢人口は総人口を大幅に上回る比率で減少を続け、就業者数は4万人を割る、より厳しい状況も考えられます。推計を精査することにより、産業振興への取組みの重要性を強く訴えることが望ましいと思われる。 ②市内純生産は期待値が記載されているが、過去のデータからの推計値を示す。 長期ビジョンで示すべき「目指す姿」「目標値」を示すのではなく、現在の花巻市の状況から想定される推計値を示して、取り組むべき課題を抽出することが必要と思われる。 ③市民分配所得は企業の利潤も含まれた期待値が記載されているが、削除する。 市民の所得が向上すると誤解を招くだけの計算上のデータであり、長期ビジョンに記載することは適切でないと思われる。	①就業者数については、過去のデータによる傾向からだけでなく、今後の人口の推移や労働力需給の予測等も含めて推計したものです。 ②市内純生産については、過去のデータによる傾向からだけでなく、人口(就業者数)の推移や、経済成長の予測等により推計したものです。 ③人口減少に比例して、産業も一緒に縮小していくわけではないという姿を示す目的でしたが、ご提言のとおり、市民一人ひとりの所得が向上すると誤解をまねく恐れがありますので、素案から削除しました。 【修正後】 (3)「市民分配所得」を削除

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
23	第2章 第2節 3 産業構造	<p>就業者について、企業面接して不採用の連続とならないような施策を展開し、就業できないことによるデメリットを(税収等の面で)企業等にも理解してもらおうべき。(FM等の広報を使用しながら)</p>	<p>求職者向けの支援策といったしましては、「ジョブカフェはなまき」を運営し、職業観の育成や就職に結びつく各種セミナーの開催、個人カウンセリング等を実施しております。また、企業等の採用拡大に向けましては、ハローワークや花巻雇用開発協会等と連携した働きかけを行っており、今後も、ご指摘の媒体等の活用を含め、より効果的な展開に努めてまいります。</p>
24	第2章 第3節 財政見直し	<p>第3節を削除し、財政上の課題を抽出して第1節に記載する。 ここでは、長期ビジョンの前提となる、現状から考えられる「財政上の課題」を明確に示すことこそが重要と思われる。 しかし、素案では、「目指す姿」「財政運営の指針」「財政見通しの目標」など、長期ビジョンの内容とするべき事項について先取りして記述されており、「課題」の整理から逸脱し、具体的な施策まで踏み込みすぎていると思われる。「結論ありき」で、それでは第3章で「長期ビジョン」を掲げる意義が薄れてしまうのではないだろうか。</p>	<p>この章では、今後のまちづくりを進めるにあたって重要な視点を示すものであることから、章の趣旨に沿って、素案の内容を修正しました。</p> <p>【修正後】 「財政見直し」の構成を変更</p>
25	第3章 第1節 将来都市像	<p>市民会議の提案を活かし、「広い世代が歴史・文化を学び、伝え、市民パワーをひとつに明日を拓き、笑顔の花咲く温かい都市はなまき」とする。 市民会議では、ある班の提案が投票で1位になりましたが、その後、各班の案を付加し、全体一致で将来都市像をまとめました。その一言一句には全委員の思いが込められています。文言に誤りがなければ、ぜひ採用いただきたいと思えます。 なお、「はなまき」を「イーハトーブはなまき」とすることについては、5班中2班の提案にもあることから、各委員も賛同くださると思われます。また、「タイトルとしては長すぎる」との意見が市民会議でもあったことから、市民が覚えやすく使いやすいように、省略形で「笑顔の花咲く温かい都市 イーハトーブはなまき」と表現して併用することも認めてはいかがでしょうか。(「都市」はいずれも「まち」と読む。)</p>	<p>市民会議からいただいた提言を踏まえ、市において検討したのですが、市民会議の中でも将来都市像には長過ぎるという声もあり、提言の趣旨一つひとつが消えない範囲で整理したものです。 なお、省略形の併用は考えていないところです。</p>
26	第3章 第1節 将来都市像	<p>文学的で崇高なイメージでしようが、何度読んでも、10年後の姿を描くことができずにいます。 都市の定義はわかりませんが、10年後の2023年には、908.32km²の面積の中に、9万人(31,000世帯に)を切る市民がくらす地域社会を、無理して「都市像(まち)」とするのではなく、「街」でよいのではと考えます。 長期ビジョン37～48ページの「第4章 地区ビジョン」に記述されている将来像とどうリンクしているのでしょうか。 この地区ビジョンをベースにして、花巻市の将来像や具体的な計画を討議・策定することこそ、市民の声を積み上げた計画(声の反映)になると考えます。 例えば 文学的ではないのですが、 伝統と文化と自然を大切に とか 市民パワーをひとつに誰もが安心してくらす地域 とか 笑顔あふれる街 イーハトーブはなまき とか もっと市民がまぶたに描ける姿がいいのではと考えます。</p>	<p>将来都市像の解釈をわかりやすくするため、フレーズごとの解説から、具体的目指すまちの姿を掲げることとしました。 また、ご提言の「街」という表現は、市域の市街地だけを指すものと連想され、「都市」にも同様の意味はあると思いますが、「地方都市」という表現があるように市域全体を指して「都市」としているものです。 なお、地区ビジョンは、各コミュニティがそれぞれ独自の発想で地区の将来像を掲げたもので、これを尊重し、まちづくりに反映させることを示すため、総合計画に掲載したものです。</p> <p>【修正後】 将来都市像の解説を変更</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
27	第3章 第2節 まちづくりの分野と その目指す姿	それぞれの「目指す姿」に、市民会議提案を採用いただきたい。 素案では、市民会議からの提案がほとんど活かされていません。その一言一句には委員の思いが込められています。文言に誤りがなければ、ぜひ提案文を採用いただきたいと思えます。	市民会議からいただいた提言を踏まえ、市において検討し素案として策定したものです。
28	第3章 第2節 まちづくりの分野と その目指す姿	「しごと」分野の目指す姿・施策からして、10年後の「仕事いっぱい、雇用いっぱい」はチョットオーバーな感じがします。確かに10年後、人口は約8,600人減少するものの、純生産額は横ばいで、就業人口は約5,100人の減少ですから、一人当たりの分配所得は約14万円増加する見通しになりますが、それで「仕事がいっぱい、雇用がいっぱい」と言えるかどうか？その背景となる企業の誘引、中小企業の充実支援、農畜林業者の新規拡大、特産品の拡大、花巻への移住施策などの記述が見当たりません。それは、長期ビジョンのスタートである第1期プラン(来年2014年から3ヶ年)が明示されていないことから、長期計画をイメージしかねるとも言えます。第1期プランを明示すべきです。	「仕事いっぱい」は多様な産業の集積を、「雇用がいっぱい」は其中で安定した雇用が保たれている様子を、そして「活気に満ちたまち」は市民所得の向上をそれぞれイメージしたものです。その実現には、ご指摘のとおり、各種の幅広い施策展開が必要です。長期ビジョンにおいては、企業の誘引や特産品の拡大は「農工商観連携」に、中小企業の充実支援は「工業」と「農工商観連携」の中に考え方を入れています。
29	第3章 第4節 まちづくりの基本政策	「しごと」、「くらし」、「人づくり」の分野の目指す姿や施策の中で、10年後「しています」「なっています」「います」と表現していますが、市民の視点からすれば、わかりづらく、市民パワーで「こうした状況をつくっていこう」とか「めざそう」と思える表現にしてはと考えます。(文法的にはその表現が正しいのかも知れませんが)	市民と行政が10年後に「目指す姿」として、その状態を掲げたものです。また、目指す姿の実現に向け、市民と行政が果たすべき役割、期待される役割について記載しております。
30	第3章 第4節 1しごと 1-1 農林業の振興	花巻といえばこの農畜産物が美味しいということを全国にPRし、TPPに負けない元気と安全を展開していくべき。	農業者の所得確保のため消費者との顔の見える交流を推進しており、一層進めてまいります。

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
31	第3章 第4節 1しごと 1-1 農林業の振興	<p>①政策の目指す姿に「農林業者が生活できる所得の確保をめざします」と「生活できる」を挿入してはとを考えます。 なぜならば、生産者の願いである、農業で子どもを育て・学校に入れ・生活できる経営基盤がなによりも大事であると考えます。</p> <p>②農産物の生産とあわせて、誰もが願う「食の安全と健康な食生活」の推進が大切と考えます。 食料自給率の向上にもつながる重要な施策と考えますが、どこにも記述されていないと思います。</p> <p>③花巻の特産である農畜果物に付加価値をつけ生産・販売するシステムの確立(支援)と、各地区での商品づくりの推進です。 政策1-5 農工商観連携の推進には記述されてはいますが、例えば、すでに人気商品になっている、みそこ胡瓜や雑穀料理のように、女性や高齢者のアイデア・活力を生かして、付加価値をつけ、商品をつくり・販売し、収入を得る(日銭でもいい)ことができる施設・システム(ノーハウも)を、各地区(でかいの一つではなく)につくり、働きがい・生きがい・元気をつけていくことが課題であると考えます。</p> <p>④森林の保全「森林が健全に育っています」は、この間、言われてきた「松くい虫」対策が進まず赤枯れしています。 豊かな自然を大切にする上でも、森林を保全する支援(雇用拡大にも)がなければ、10年後、健全に育ってはいないと考えています。</p>	<p>①生活できるための安定した所得を確保することが必要であることから、目指す姿に「安定した」を加えました。</p> <p>○政策の目指す姿 【修正前】「農林業者が所得を確保しています」 【修正後】「農林業者が安定した所得を確保しています」</p> <p>②農畜産物の生産については、施策「農業生産の支援」において、新技術や新品種の導入や生産拡大などの取り組みを支援しております。また同時に、安全性の高い農畜産物の生産や地産地消の取り組みについても支援しており、今後も推進してまいります。</p> <p>③政策1-5農工商観連携の推進において、地場産品を活用し、付加価値を高めるための取り組みを展開してまいります。 ご意見として賜ります。</p> <p>④「松くい虫」対策は、全国でも例がない予算規模で実施してまいりましたが、被害の拡大を食い止めるまでには至っていない状況であります。 今後においては、樹幹注入や抵抗性の強い松の植林などの対策に努めてまいります。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
32	第3章 第4節 1しごと 1-3 商業の振興	<p>商業機能の充実、街づくりと大いにかかわりがあると思います。その施策が不十分と考えます。2023年(平成35年)には、人口の35%が65歳以上になると推定しているにもかかわらず、大型スーパー、高校、市の施設などさまざまな施設が郊外、しかも遠隔地にある現況では、商業機能の充実は厳しいと思われます。</p> <p>人と物の流れを活発にするには、市をはじめ様々な施設(例えば、市の窓口、図書館、デイサービスなど福祉関連施設・社会福祉相談交流、消費者問題の相談学習、500人～800人位参加できる学習・文化・交流施設、高齢者交流・いきがい施設、幼稚園・保育園など)などを街なかに移し、子どもや高校生や若者が行き交う街の発想がなければ、話だけで現実は難しいと考えます。</p> <p>資金は、新規投資もあるでしょうが、知恵と工夫で現施設の増改築・活用の工夫、空き店舗の補強・活用などが考えられると思います。</p>	<p>商業機能の充実については、消費者である市民の多様なニーズに応え、満足度を高めること、例えば郊外型大型店とまちなか商店街との機能的な連携や、いわゆる買い物弱者対策など、商業機能の幅広い充実を図ることが必要と考えています。</p> <p>また、第2章第5節の「土地利用の基本的な考え方」において、既成市街地を中心的役割を担う地域とし、効率的で利便性の高いまちづくりを進めることに表現に修正しました。</p> <p>○土地利用の基本的な考え方 【修正前】 このことから、都市計画法により指定されている用途地域(以下「用途地域」という。)は、本市の中心的役割を担う地域として、商業・業務機能・文化的機能等を配置し、活気とにぎわいのある空間の形成を図ります。併せて、優良な農用地の保全に留意しながら、必要な都市的土地利用のまとまりを確保し、農用地と宅地の調和のとれた土地利用を誘導します。</p> <p>また、工業団地周辺においては、企業の立地動向を踏まえた産業集積に必要な立地基盤の計画的整備を図ります。</p> <p>【修正後】 このことから、すでに基盤が整った既成市街地については、本市の中心的役割を担う地域として、定住人口の誘導を図り、都市機能が充実した、効率的で利便性の高いまちづくりを進めます。</p> <p>また、周辺部においては、優良な農用地の保全に留意しながら、宅地と農用地の調和のとれた土地利用を誘導するとともに、工業団地や流通団地周辺においては、企業の立地動向を踏まえた産業集積に必要な立地基盤の計画的整備を図ります。</p>
33	第3章 第4節 1しごと 1-4 観光の振興	<p>観光客が「花巻に来てよかった。将来はここに住んで貢献したい。」との思いを大切に、市民のマナーを良いものにさせることを展開していくべき。(すれ違い時のあいさつ等)</p>	<p>ご提言のとおり、広く市民がおもてなしの心で観光客をお迎えいただき、そういった仕組みづくりが重要と考えておりますので、観光ボランティアやイベントスタッフなど、市民が直接関われる機会や、市民に改めて花巻市の魅力を知っていただく機会の提供等を通じながら、「おもてなし」の醸成に努めてまいります。</p>
34	第3章 第4節 1しごと 1-4 観光の振興	<p>「移動しやすい観光地」とありますが、観光のルート(何をどう歩き観てもらうか)と、その交通手段(例えば、10～15人位のミニバス定期巡回。1千万×8台 約1億円の投資など)の充実が、なによりも先決と考えます。</p>	<p>観光ルートについては、幾つかのモデルコースを設定し、花巻観光協会のサイトや観光パンフレット等で紹介しておりますが、今後さらに、年齢層や旅の目的などに応じたパッケージ化を図り、広く発信して参りたいと考えております。</p> <p>また、そのための交通手段につきましては、現在「あったかいなはん号」という予約制のクラシックバスを市内2～3コースで運行しておりますほか、「銀河鉄道の夜ツアー」として他に1台が同様にルートを設定して運行しております。</p> <p>今後も二次交通の充実に努めてまいります。</p>
35	第3章 第4節 2暮らし 2-2 生活基盤の充実	<p>公共交通網、つまり車を運転しない市民の足をどのように企画し予算化し、不公平にならないように計画を立てて、実行するのが、ちっともこの案からは読み取ることができません。</p>	<p>長期ビジョンでは、政策の基本的な方向までを示しており、公共交通については、花巻市公共交通計画を住民の皆様の参画と協働により策定し、公共交通を必要とする市民が利用しやすい公共交通サービスを構築してまいります。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
36	第3章 第4節 2 暮らし 2-2 生活基盤の充実	公共交通の確保「公共交通が利用しやすくなっています」は、美辞麗句で、10年後、利用しやすくなるとは考えられません。裏づけが必要です。 例えば、矢沢地区には人口8,100人(2,800世帯)居住していますが、公共バス(晴山～ヨード)は平日1時間に1本(最終17時)、土日祭日はさらに少なく、しかも通勤・通学の電車などと連動しているわけではなく、本当に来るのかどうか？疑問に思いながら待っています。 この経緯からして、減便はあっても、増便は考えられず、利用者は減るばかりと考えます。	利用者数の減少により民間路線バスの減便や路線廃止等の路線再編が進行し、公共交通不便地域が発生しています。 このため、市では花巻市公共交通計画を住民の皆様の参画と協働により策定し、公共交通を必要とする市民が利用しやすい公共交通サービスを構築してまいります。
37	第3章 第4節 2 暮らし 2-4 日常生活の安全確保	車も歩く人も「市民合同安全教室」を開いて、それぞれのメリット、デメリットを学習しながら安全な暮らしにしていくべき。	子どもや高齢者を対象とした交通安全教室を開催していますが、ご意見を踏まえた交通安全教室の開催も検討してまいります。
38	第3章 第4節 2 暮らし 2-5 福祉の充実	子供たちの中で認知症という病気をわかっていない人がいた。大人がよく教えてあげて、高齢者の気持ちを大切にしながら安心のまちづくりに・・・と思う。	認知症を発症する方々が増加していることから数年前から市内中学生を対象とした認知症講座を開催し、さらに市民を対象とした「認知症セミナー」も開催しております。 今後も、広く市民に認知症のご理解を得られるよう周知に努めます。
39	第3章 第4節 2 暮らし 2-5 福祉の充実	高齢者社会の中で「高齢者の社会貢献活動」への参画・推進が大事であると考えます。それは、高齢学を研究している柴田博さん(人間総合科学大学大学院教授)は、「高齢社会は若年層に負担がのしかかる暗いイメージがあるが、現実には、障害・要介護の高齢者は全体の20%で、80%は自立高齢者である。社会貢献活動を行っている人は生活習慣病にかかるリスクが低い。クオリティーが高く、個人も地域も活性化する」と話しています。大いに同感です。 花巻市の2023年(平成35年)の65歳以上の総人口の見通しは約31,200人、柴田教授による、高齢者の生活機能を「花巻市」にあてはめると 5%障害 1560人 15%要支援 4,680人 60%平均的高齢者 18,720人 20% 恵まれた高齢者 6,140人 この方々の社会貢献活動への参画の推進が課題です。	ご提言のとおり、高齢者の地域活動やボランティア活動など、高齢者の生きがいづくりや社会参加の推進を図る必要があると考えています。 一方、地域団体の役員、スクールガード、自主サークル活動など多くの高齢者の方々が地域において活躍しており、今後その役割は、ますます重要になると考えているところです。 今後も、地域活動や交流事業を支援し、高齢者の生きがいづくりや社会参加の推進を図ります。
40	第3章 第4節 2 暮らし 2-5 福祉の充実	「結い」(ゆい)、「地域の助け合い」など 存在していないものを、無理無理あるかのように幻想をふりまいているだけで、新しいつながり方は、編み出してはいません。 更に、最大の障害である「個人情報保護法」をどのようにして克服するかさえ明記されてはいません。区長、民生委員だけでは「新しいつながり」はうまれません。それは、個人のプライバシーに配慮しつつ、個人の意思を尊重しつつ、協力し合う地域住民の情報の共有によって生じるのです。	一人暮らし高齢者など援護を必要とする方に対する地域での見守りの仕組みづくりが大切であることから、現在、地域や民間事業者と連携した見守り情報のネットワーク形成を進めています。 また、個人情報との関係につきましても、援護を必要とする方を把握する際は、希望者を対象とすることや登録情報の保護等について要領を規定するなど個人情報の保護に配慮しながら、今後も福祉政策の目指す姿である「慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らせる」よう官民一体となり一人暮らし高齢者など援護を必要とする方の地域での見守りの仕組みづくりを推進してまいります。

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
41	第3章 第4節 2 暮らし 2-5 福祉の充実	<p>車椅子でも寝たきりでも、どんな障害を持っていても医者を確保してくれていて、自宅や施設で暮らせる環境を作ろうという市民同志の共通理解が必要です。それがなければ高齢者や障害者の孤立は防ぎようもありません。</p> <p>厚生労働省は、障害者や高齢者を自宅で介護する方針を明らかにしています。しかしそれぞれの状態や不十分な環境の下で、おおくの障害者、高齢者は苦渋の選択を強いられています。特別老人ホーム、軽費老人ホーム障害者用老人ホームは、決して居住地の近くにはありません。寝たきりの老人も点滴を外すことなく、期限がくれば、別の病院に移らざるをえません。これは、報酬単価が、入院が長引けば長引くほど低下するからで、患者を無視した医療といわざるをえません。</p> <p>花巻市も同様です。入院可能な医院は少なく、障害者とチームプレイをしてくれる医者もほとんどありません。これを放置したままでは、10年後は、安心して老後を過ごせるよというメッセージは、この案からは伝わってきません。あえて、コミュニティ(共同体)を再構築するならば、歩ける範囲に、生まれた時から、この世を去るまでに必要な施設設備を配置することこそが、大切であり、そこから自然と地域意識が生まれてくるはずで、既製概念を取り払って、市民だけでなく、市外からの人たちが、そこなら住みたい、と手を上げるような構想が、大切とおもわれます。例えばどれほどお金がかかろうともです。</p>	<p>ご意見のとおり、誰もが慣れ親しんだ地域で、安心して暮らすことが理想であり、本計画の福祉政策においても、「慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らす」ことを目指す姿としております。</p> <p>現状としては、特別養護老人ホームなどの施設の整備にあたっては、居住地(市街地)の歩ける範囲に配置することは難しい状況ですが、高齢者が慣れ親しんだ地域で安心した生活ができるよう医療と介護連携を図り、高齢者ケアに対応していく「地域包括ケアシステム」を構築するほか、障がい者の地域生活を支えるために、障がい福祉サービスや相談支援体制の充実に努めてまいります。</p>
42	第3章 第4節 2 暮らし 2-6 健康づくりの推進	<p>誰もが願う家族の健康に「健康な食生活」は欠かせないと考えます。</p>	<p>健康づくりと食生活との関わりは、たいへん重要でありますことから、食生活に関する正しい知識の普及啓発や朝食の摂取向上、減塩の推進、食生活改善推進員による地域での講習会開催支援などを行っております。</p> <p>今後も適切な食生活習慣や食事バランスなど食に関する地域について普及啓発を進めてまいります。</p>
43	第3章 第4節 3 人づくり 3-2 学校教育の充実	<p>平成25年に限らず、住んでいるまちで良くないニュース(行政不安など)起こることがある。子供たちが不安であおられないよう、まずは大人から身を正して接するべきと考える。</p>	<p>市といたしましても、職員意識の甘さを認識し、全職員からコンプライアンスの徹底に係る誓約書の提出を求めるとともに、花巻市職員倫理規程を新たに制定するなど、法令遵守と綱紀粛正を徹底したところであります。市民皆様の信頼回復を実現することが、行政の責任を果たすことであると考えております。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
44	第3章 第4節 3 人づくり 3-4 スポーツの振興	<p>「人づくり」分野で記載であるが、「暮らし」分野での記載を検討する。スポーツ振興の最終目的を「人づくり」とすると、スポーツを「修練の場」と捉え、若い世代が厳しいトレーニングを重ねるようにイメージされかねません。</p> <p>一方で、「健康づくり」として捉えると、生涯を通じて、その体力や年齢にふさわしい内容のスポーツを楽しみながら健康な心身を育むことができます。花巻でも多くの高齢者や障害者がスポーツを楽しんでいます。彼らは「仲間づくり」「健康づくり」とは思っても、「人づくり」とは思っていないでしょう。</p> <p>スポーツは「習い事」ではなく「楽しむ」ものと言われています。スポーツが人づくりに役立つ面を持っているとは思いますが、それはせいぜい高校生までで、大学生や社会人の大部分は、「楽しみ」や「健康維持」のためにスポーツを行っているのではないのでしょうか。スポーツで「人づくり」を押し付けるか、楽しく市民の幅広い「健康づくり」を目指すか。どちらが「イーハトーブはなまき」にふさわしいか、今一度検討を願います。</p> <p>なお、「健康づくり」を選択した場合であっても、競技スポーツの推進や大規模スポーツ大会の開催の重要性には変わりがないと思われます。</p> <p>サッカーの前回ワールドカップで優勝したスペインでは、6歳児が絶妙なパスを回すそうです。なぜか。国内リーグやワールドカップ予選のような大きな大会の観客席で、子供たちが大人に混じって素晴らしいプレーを見ているから。それが、人気選手を抱えたプロサッカーチームをトップとする総合スポーツクラブによる、幼児から高齢者までの多様なスポーツ人口ピラミッドの形成を支えているそうです。花巻でも、そのような姿が望まれます。</p>	<p>ご提言のとおり、スポーツは「健康増進」の役割を担うものですが、一方で、次代を担う青少年の体力向上や人格形成、交流促進による地域の一体感や活力の醸成が期待されることです。さらに、楽しむための生涯スポーツの推進や競技力向上とそのための指導者等の育成など、健康増進のみに終わらない施策を展開するものです。ご提言中の「仲間づくり」や「スポーツを楽しみながら健康な心身を育む」という姿などからも「人づくり」分野が適当であると考えます。</p>
45	第3章 第5節 4 地域づくり 4-1地域主権のまちづくり	<p>「政策4-1 地域主権のまちづくり」中、「多くの住民が地域づくりに参加できるよう」、「(1)地域づくりへの参加促進」、「多くの住民が地域づくりに参加しています」のいずれも、「参加」を「参画」とする。</p> <p>花巻市まちづく基本条例では、「参加」ではなく「参画」に用語を統一しており、素案でも「参画・協働のまちづくり」を「基盤となる政策」としています。</p> <p>誰かが作ってくれた計画に後から加わることは「参加」で、計画を作るところから加わるのが「参画」だと言われています。</p> <p>お祭りに例えると、山車づくりなどの段階から加わるのは「参画」で、お祭り当日だけその出来上がった山車を見て楽しむのは「参加」です。</p> <p>花巻の地域づくりで促進しようとしているのは、地域づくり計画や個別の事業実施計画の策定段階から住民が加わる、「参画」のはず。あらためて、「参加」ではなく「参画」に意思統一することが必要と思われる。</p>	<p>地域づくりを進めるためには、幅広い世代の市民の参画が必要です。そのためには地域での運動会や生涯学習事業などにまずは「参加」し、そして気づき、考え、次のステップとして「参画」してもらいたいと考えています。</p> <p>まずは多くの住民が地域活動に参加することを狙いとしています。</p>
46	第3章 第5節 4 地域づくり 4-1地域主権のまちづくり	<p>コミュニティ会議(予算付)が、機能していない(一部の市民のみの参加)のに、それを軸にして立てる街づくり計画は、地域住民の実生活とはかけ離れすぎていて、元来の地域とのずれが大きくなるばかりです。</p>	<p>市では、コミュニティ会議について条例化するとともに、活動支援として地域づくり交付金を交付するなど、地域の自主的なまちづくりを進めています。</p> <p>コミュニティ会議は、自立した地域社会を実現するため地区内の参画と協働により個性あふれた地域づくりに取り組んでおり、地域住民に開かれた組織です。お気づきの点は、コミュニティ会議の役員や事務局にお聞かせ下さい。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
47	第3章 第5節 4 地域づくり	<p>①政策推進のための施策に、異をとなえるわけではありませんが、現況の延長上での参加促進や基盤強化、参画の浸透ではなく、大胆な改革が必要です。</p> <p>②市民パワーをひとつに、支えあい・助けあい・誰もが安心してらせる地域づくり活動を推進する上で、あらゆる場で「もっと女性の活力が発揮される基盤(そもそも参画できる場・チャンス、サポート、学習や研修の参画・チャンスなど)が大事です。 なぜなら、花巻市の2013年5月の人口100,955人。うち女性は52,895人、52.3%をしめています。女性のもっている知恵・知識・エネルギーがあらゆる分野で発揮されなければ、少子高齢社会、人口の減少・過疎化・街の衰退・農業の危機を克服し、個性のある街・地域づくりをする上で大きな課題と考えます。</p>	<p>①「コミュニティ会議と市との協議の場」や情報交換会等を通じて、コミュニティ会議とともによりよい地域づくりに向けて創意工夫してまいります。</p> <p>②まちづくり、地域づくりには、老若男女多くの市民の参加、参画が必要と考えており、参画へのきっかけづくりや機会の拡充など、参加・参画の促進を図ってまいります。</p>
48	第3章 第5節 4 地域づくり 4-2 参画・協働のまちづくり	<p>「政策4-2 参画・協働のまちづくり」中、「市政への参画機会を拡充します」、「(2) 市政への参画機会の拡充」を「市政への参画と協働の機会を拡充します」、「(2) 市政への参画・協働機会の拡充」とする。</p> <p>「協働」とは、用語解説に記載されているとおり、「市民と市が、互の特性を認識・尊重し合いながら、共通の課題の解決や目標に向けて、それぞれの役割と責任をもって、協力し行動することです。したがって、「参画のまちづくり」と「協働のまちづくり」とともに実現するためには、市政への参画機会を拡大し、市民が行う公益的な活動を支援することと併せて、市民と市が共通の課題の解決や目標に向けて「協働する機会を拡充」することが必要不可欠と思われます。市は、市民が行う公益的な活動を支援するとともに、市自らが市民との協働に積極的に取り組むことが重要と思われます。</p> <p>(参考:H17.3総務省研究会報告抜粋) 「新しい公共」 ・従来の行政を中心とした公共サービスの限界を打破し、新しい地域課題にきめ細かく対応していくためには、「公共」のあり方を根本的に考え直すことが必要。 ・行政も、民間も、共に「公共」の役割を担えるように「公共」の考え方を刷新し、地域の様々な主体がそれぞれの立場で「新しい公共」を担うことにより、地域にふさわしい多様な公共サービスを提供する。 ・この「新しい公共」空間の形成こそが、行政と住民との協働による地域経営を実現する。 ・そのためには、「行政と住民との関係」と「行政内部」の二つの変革が重要。</p>	<p>「参画と協働のまちづくり」を進めるため、市民が積極的に市政に関わる環境づくりが重要と捉えておりますので、ご意見のとおり、文中の「市政への参画機会を拡充・・・」を「市政への参画・協働の機会を拡充・・・」に、「(2) 市政への参画機会の拡充」を「(1) 市政への参画・協働機会の拡充」と修正しました。</p> <p>○政策4-2 参画・協働のまちづくり 【修正前】 そのために、市民が行う公益的な活動を支援するとともに、積極的に市政に関わることができるよう市政への参画機会を拡充します。 【修正後】 そのために、市民が積極的に市政に関わることができるよう市政への参画・協働の機会を拡充するとともに、市民が行う公益的活動を支援します。</p> <p>【修正前】 (1) 公益的活動への支援 (2) 市政への参画機会の拡充 【修正後】 (1) 市政への参画・協働機会の拡充 (2) 公益的活動への支援</p>
49	第3章 第5節 5 行政経営 5-1 効率的・効果的な行政運営	<p>「政策5-1 効率的・効果的な行政経営」中、「(4) 行政評価の活用「常に適切な施策が講じられています」を「市民参画のもと、常に適切な施策が講じられています」とする。</p> <p>花巻市まちづくり基本条例第23条で、「主要な施策や事業について市民参画のもとで客観的な行政評価を行う」とされており、この趣旨を反映するべきと思われます。</p>	<p>まちづくり基本条例に定める市民参画・協働のまちづくりを基本としており、それぞれの施策に共通することから、個々の施策の目指す姿では、触れていないところです。</p>

No.	計画の項目	意見の内容	市の考え方
50	第3章 第5節 5 行政経営	<p>「5 行政経営」の施策に共通して言えることがある。便利さを求めるのは分かるが、まずは、不祥事が起こりやすくなっている背景を共有し、市内外の方々に不信をもたれないような人材育成と窓口サービスを充実。そうすることにより、行政職員(公安・政治家を含む)の市民からの信頼を取り戻せるものと考え。(行政不安、不信が多いとまちがよくなる)</p>	<p>職員意識の甘さを認識し、全職員からコンプライアンスの徹底に係る誓約書の提出を求めるとともに、花巻市職員倫理規程を新たに制定するなど、法令遵守と綱紀粛正を徹底したところであります。また一方では、職場内で管理監督者が行うOJT研修などにより、会話のある明るい雰囲気づくりや信頼構築を心がけ、一層市民サービス向上に取り組んでおります。市民皆様の信頼回復を実現することが、行政の責任を果たすことであると考えております。</p>
51	第3章 第5節 5 行政経営 5-1 効率的・効果的な行政経営	<p>情報の浸透はどこかの段階で止まっていて一般市民は、せいぜい、広報か回覧板ぐらいでしか情報は得られません。ITの進歩はめざましく、情報の伝達手段の開発は「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに進められています。その開発、システムの導入などのコストは割高なもの事実です。それにも言及すること無しに、簡単に、誰にでも情報が届くことを前提にしているこの案を、どのように理解したらいいのか判断にくるしみます。多くの予算と工夫が今後、必要となる筈なのに、です。</p> <p>具体的には、市からの、あらゆるサービス、重要なお知らせなどは、ほとんどが、必要なら役所(関係部署)に来てください、では誰も行きません。そんな状態で、市民の意識が高まる訳がありません。</p> <p>必要な人に、必要な形で、情報などを職員自ら出向いて届けるのが本来の公務員の役割です。10年後は北欧のように、「窓口から本人へ」になってほしいものです。</p>	<p>市民の誰もが必要な時に必要な情報をわかりやすく得ることは、行政運営において重要なことと認識しており、施策として計画の中に位置づけているところです。</p> <p>市政情報の提供にあたりましては、情報の受け手となる市民各々の環境に配慮しながら、充実に努めてまいります。</p>
52	第3章 第6節 計画推進にあたっての市民と市の役割	<p>「市の役割」中、「協働のまちづくりを進める観点」、「市民の参画を促すとともに」を「市民参画・協働のまちづくりを進める観点」、「市民の参画と市民との協働を促進するとともに」としたうえで、この項目を「市の役割」の最上段に掲げる。</p> <p>花巻市まちづくり基本条例第5条で、市民の「参画」と「協働」によるまちづくりを花巻市のまちづくりの基本原則とし、第3条でこの条例は市の最高規範であり、まちづくりに関する計画を策定するときにはこれに適合させることとしています。このため、市民の「参画」と「協働」は不離一体のものとして併記することが必要不可欠と思われます。</p> <p>また、「市民参画・協働のまちづくり」は、他の事項に優先すると思われます。</p>	<p>市民参画と協働のまちづくりを基本としており、ご提言の趣旨に沿って素案を修正します。</p> <p>○市の役割 【修正前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市は、市民に対して、政策・施策の進捗状況や財政状況等、判断の基準となる情報を積極的に提供するとともに、市民の意見やニーズの的確な把握に努めます。 ◆市の強み・弱みを把握して、施策の選択と集中を進め、計画的な市政運営及び効率的・効果的な行財政運営を行います。 ◆協働のまちづくりを進める観点から、市政への市民の参画を促すとともに、地域の主体的なまちづくりを積極的に支援します。 <p>【修正後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市民参画と協働のまちづくりを進める観点から、市政への市民の参画を促すとともに、市民の主体的な地域づくり、まちづくり活動を積極的に支援します。 ◆市は、市民に対して、政策・施策の進捗状況や財政状況等、判断の基準となる情報を積極的に提供するとともに、市民の意見やニーズの的確な把握に努めます。 ◆市の強み・弱みを把握して、施策の選択と集中を進め、計画的な市政運営及び効率的・効果的な行財政運営を行います。